

平成 24 年 4 月 23 日

聴 取 結 果 書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局  
局 員 田部 大輔

平成 24 年 4 月 20 日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第 1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

志間正和 内閣府原子力被災者生活支援チーム放射線班 兼 環境省水・大気・  
環境局放射性物質汚染対策担当参事官室補佐  
(原子力安全・保安院原子力防災課企画班長 (当時))

2 聴取日時

平成 24 年 4 月 20 日午前 10 時 02 分から同日 10 時 27 分まで

3 聴取場所

東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 番 1 号 経済産業省別館 5 階 501 面談室 2

4 聴取者

久保善哉 田部大輔

5 IC レコーダーによる録音の有無

あり

第 2 聴取内容

大規模自然災害と原子力災害の同時期発生に対する対応体制の整備に係る内閣府防  
災担当とのやりとり (平成 23 年 3 月 8 日) 等について  
別紙のとおり

第 3 特記事項

特になし

以上

【取扱い厳重注意】

【別紙】

久保) 原子力防災課におられたところに、原子力災害と自然災害の複合事象に対する対応体制を作っていこうとしたけども、関係省庁、自治体の反対があつてうまくいかず、そういう状況の中で、仕切り直しをして、調査会の方で、これは中央防災会議でやっていかないとうまく行かないだろうという話になった。そこで、23年の3月8日に、中央防災会議事務局に対し、別件の相談と併せて、資料を用いて、中央防災会議で議論させてくれと申し入れたという話について詳しく伺いたい。まず、別件の相談というのは、JNESを指定公共機関に入れ忘れていたので、入れてくれと言う話だったということでしょうか。

志間) はい。

久保) それがこの時のメインの相談案件で、その後相談をしたときに、最初からこの4人の方(岡田、宮崎、沼野、長瀬氏)が対応したのか。

志間) いえ、岡田さん(総括担当ラインの補佐)だけはいなかった。

久保) JNESの話をやって、それが終わってから複合災害の話をしたという理解でいいか。

志間) はい。

久保) あらかじめメールでいただいているこの資料(内閣府防災へ相談の際に持ち込んだ資料)は、まず岡田さん以外の3人には渡したということでしょうか。

志間) はい。

久保) この資料について、説明なり相談なりする時間は十分に取れたか。

志間) 岡田さん以外の3人(当時の内閣府防災の調査担当ライン)には、説明する時間は十分取ってもらった。一通り説明して、その3人は、自分らの担当ではない。岡田さんの担当だから岡田さんのところに持っていこう、ということで岡田さんのところに行った。

久保) 説明の時は、中央防災会議に聞いた話では、複合災害の案件について、次回の中央防災会議の議題に取り上げてほしいというような説明があつて、議題をどうするかという話は宮崎以下のラインの担当ではない、ということで岡田さんの方に持っていったと聞いているが事実か。

志間) 私の考えでは中央防災会議に上げてくれればいいが、その下に専門調査会というところがあつて、そこで審議をしてもらえるような形にならないかということで、そういう話をしたところ、宮崎さんたちは、自分らではなくて岡田さんだ、ということでその話を持っていった。次の防災会議に上げてくれという話ではない。

久保) 資料には「審議する場を教えてください」とあるが、保安院側の想定としては、いわゆる閣僚級の中央防災会議の下に様々な専門調査会があるが、そういう場に多分あがるんだろうと考えて、そうするとしたら既存のどの専門調査会でやるのか、あるいは新たな専門調査会を作ることはできるのかとか、そんなことを聞いたかったのか。

志間) そのとおり。そういった手続きを聞いたかった。

久保) その話を宮崎氏他にしたところ、帰ってきた反応は、単に、それは自分らの担当ではない、ということだったのか。

【取扱い嚴重注意】

志間) はい。だから、岡田さんを紹介するということで連れて行ってもらった。

久保) 岡田さんにもこの紙は渡したか。

志間) 渡した。

久保) 説明する時間は、あまりなかったということか。

志間) 説明する時間はあまりなかったというよりも、最初から聞き入れてもらえないような状況だった。それは原子力災害の話だから、保安院でやってくれと。複合災害ではないという話で、まったく取り合ってもらえなかった。

久保) 内閣府防災に聞いた話だが、国会対応とかで、岡田さんはバタバタしていて、ほとんど立ち話状態だったと聞いているが。

志間) それに近い状態だったが、国会でドタバタしていたような様子ではなかった。彼自身は、椅子に座って、私も彼の席の前で3人と一緒に話をしていたところではあったが、バタバタしていたとは感じられなかった。

久保) そうしたところ、これは保安院の話だろう、という感じになった？

志間) というか、そういう風に仕切られてしまった。原子力災害の話だと。地震があっても、原子力災害の話であると。複合災害ではないと明確に言われて、中央防災会議で議論する話ではないと。

久保) なるほど。帰ってきた答えはその一言という感じか？

志間) はい。手続きさえも教えてもらえず、違うということだった。

久保) なにかそれに対して反論はしたのか。例えば、原子力災害であるのはその通りだが、同時に自然災害も起こって、そうすると自然災害対応に自治体のスタッフとかがとられるはずであると。そういうときに、原子力災害の方で動いてもらいたいと思っていた自治体のスタッフがとられたりすると、大変困ることになるので、調整とかが必要ではないか、というようなことは私でも思いつく反論だと思うが。

志間) それは伝えた。原子力防災計画でも、地震と原子力災害は明確に分かれている。これが同時に起きたときには、そういったヒューマンリソースをどちらに割くのかといったときに調整が必要になると。ヒューマンリソースも明確に足りなくなるということから、両方起こった場合を想定したことをまずは議論してもらわなければならないと。自然災害については、我々は何も言えないので、そのところは、中央防災会議をセグメントにして、こちらは汗はかくので、審議をする場を作りたいのだが、その手続きを教えてほしいと言ったら、それは違うと、原子力災害単独でやれということも明確に言われて、取りつく島もなかった。

久保) 理由、理屈として納得できるような答えはあったか。

志間) ない。我々としてはないし、彼らとしては、理解をしない保安院が悪いという感じだった。どうして、原子力災害の話なのに、複合災害という形で持ってくるのかと。

久保) 私もその岡田氏の返答はまったく理解できない。たとえ原子力災害と自然災害が同時に起こったとしても、こうこうこういう理由でそれは原子力災害の方で全部見るべき間

【取扱い厳重注意】

題であるというような、彼らにとって合理的ということではいいが、そういった説明すらなくて、頭ごなしにという感じだったか。

志間) はい。原子力災害は原子力災害であると。

久保) わかった。今の話に対して、宮崎さん以下の3人は、コメントはあったか。

志間) まったく、担当外で横にいただけである

久保) なるほど。ちょっと漠とした質問になるが、岡田さんなり宮崎さんの人となりはどんなふう感じたか。

志間) 宮崎さんはよく話を聞いてくれて、JNESを指定公共機関に設定する件は、機会が来れば、それはあわせてやっていくと、前向きにとらえてもらい、それは了承して頂いた。岡田さんも、なんというか、感触としては、そういった答えが出てきてしまったので、要は話を理解してもらえなくて、徹底的に仕事は受けないとそういう答えだった。

久保) 案件を持って帰ってきて、当然上司の方に報告されたと思うが、企画班長というのは、いわゆる課のナンバー2、課長の次のポジションということでいいか。

志間) はい。

久保) すると、課長に報告して、課長の反応はどんな感じだったか。

志間) ああ、だめだったか、さてどうしよう、と。

久保) 直ちに課長が、向こうの参事官に、なにか掛け合おうとか、そういう話にはならなかったか。

志間) ならなかった。でも、さて、どうしようか、という感じだった。

[Redacted text block]

【取扱い厳重注意】

[Redacted text block]

【取扱い厳重注意】

久保) 3月8日以前に、中央防災会議に接触したことは無いか。

志間) ない。私自身もないし、私の前任もない様子だった。

久保) 平成21年に、例の留意事項草案をつくって、各省、自治体に意見照会をしたときに、中央防災会議から何か意見が出てくるのか、直接行ってなにかを話したりとか、そういうようなことがあったかどうかというのは、引き継ぎを受けてないか。

志間) 受けていない。消防庁には行った様子だったが、少なくとも中央防災会議からのコメントというのが、私の記憶の範囲では、私が引き継ぎを受けた資料の中ではなかったの  
で、接触もしていないのではないかと思う。ただ、確認はしていない。

久保) 中央防災会議から、特に印象に残るコメントはなかったということか。

志間) コメントはなかったと記憶している。

【ここで一旦ヒアリング終了。雑談中に再度中央防災会議の話になったので、以下、聴取書として残す(録音あり)。なお、録音はできていないが、3月8日の中央防災会議事務局との打合せについては、議事録は作成していないとのことであった。】

久保) (複合災害に関する検討依頼を持ち込んだ際の内閣府防災の担当の反応として) 却下、リジェクトという感じであって、もう少し具体的な資料を持ってこない、よく分からないので、これから相談していこうと、そんな感じですらなかったのか。

志間) 「相談には乗る」と言っていたが、複合災害であっても原子力災害は原子力災害であると。中央防災会議の話ではないと。

久保) 基本的に当方の話ではないが相談には乗ると。相談に乗るとは何に乗るのか。

志間) 相談に来ているだけで…。当方は、汗はかくと明確に言った。保安院で全部ロジはやってもよいから、専門調査会とかで審議をしてもらおうようなお座敷を作らせてもらえないかということと言った。

久保) そうすると、それを含めて、当方ではやらせないと？

志間) 違う、と。

久保) 相談に乗るとはどういう意味だったのか？

志間) わからない。

久保) 話は聞くけど、つまり、執務室にも入れてやらないとかということはないのだが、答えはダメに決まっているという感じだったということか。

志間) ええ。今相談に来ているのだがと心の中で思いつつも、八方ふさがりだなと思った。

【以上】